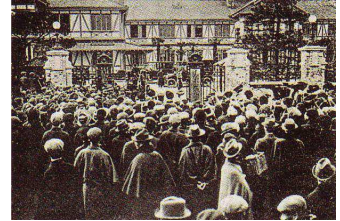


[A] 大正デモクラシーテキスト P74 対応ー

大正デモクラシーとは、大正時代に起きた民主主義的・自由主義的な風潮のことをいう。このような風潮が要因には、政治的・外交的・経済的な様々なものがある。

1つ目の政治的な要因としては、**大正政変**(1913)と**米騒動**(1918)があげられる。1913年の大正政変では、国民が議会を取り巻いたことで、第三次桂太郎内閣が退陣することになった。また、1918年の米騒動では、米価高騰に対して国民が蜂起したことで、寺内正毅内閣が退陣することになった。つまり、この2つの出来事は、国民たちの団結によって内閣が総辞職した事例になるんだ。



〔大正政変（議会を取り巻く群衆）〕

国民一人一人の力は小さいことがないけど、それぞれが団結して行動を起こせば、内閣でも倒すことができる。この出来事から、国民たちは「みんなで行動を起こせば状況が変わるかもしれない」ことを学び、女性・労働者・小作農・被差別部落民など立場の弱い人々に自信を与えることになったんだ。こうして、婦人運動・労働運動・農民運動・部落解放運動といったように、それぞれの権利を求め、地位向上を目指した運動が展開されていくことになる。

2つ目の外交的な要因としては、**ロシア革命**(1917)・**第一次世界大戦後の世界的なデモクラシーの風潮**があげられる。1917年のロシア革命では、ロシア帝国が崩壊し、レーニンを中心としたソヴィエト政権が成立した。今までは共産主義革命なんて理論上のものにすぎなかったのが、これが本格的に成功したのだから、社会主義者は歓喜する。こうして、社会主義運動が本格的に盛り上がっていくことになるんだ。

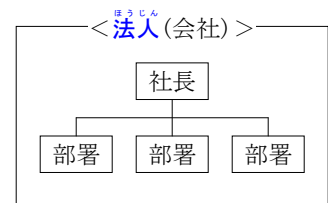
3つ目の経済的な要因は、**資本主義の発達**だ。特に大正時代には大戦景気によって、**工場で働く労働者やサラリーマンなど都市民衆が増加するようになった**。でも、資本主義が急速に発展しても、無産階級層(資産の無い労働者など)・都市中間層には、選挙権も認められていないし、ストライキなども制限されている。それは彼らに政治的・市民的な自由とは何かを自覚させるようになる。そして、彼らを中心とした担い手として、このような抑圧に対する解放を求めた運動が起きていくんだ。

こうした要因を背景に、国民たちが護憲運動・普通選挙運動などの運動を起こしていくんだけど、その行動を起こしていくには、思想的論拠が必要になってくる。つまり、「なぜ憲法に基づいた政治を行わなければならないのか」、「なぜ国民たちにも政治に参加する権利があるのか」といった根拠がハッキリしていなければ行動も起こしづらいからね。そうした思想的根拠となったのが、[B]**美濃部達吉**が唱えた**天皇機関説**、[C]**吉野作造**が唱えた**民本主義**だったんだ。

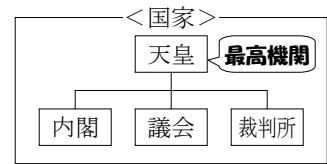
[B] 天皇機関説ーテキスト P74 対応ー

美濃部達吉が唱えた**天皇機関説**とは、**統治権は法人である国家にあり、天皇はその国家法人の最高機関として、憲法に従って統治権を行使するという憲法学説**。…「全く意味わかんねえ〜」って感じだろうね。そこで、少しずつ噛み砕いてみよう。

君たちは「国家」と「天皇」という存在を考えた場合、どちらの方が偉いと思う？東京帝国大学教授の**美濃部達吉**は、「**法人(会社)**」と「**社長(代表者)**」の関係に置き換えて考えてみたんだ。「法人」というのは、簡単に言ってしまうと会社のことなので、会社である「法人」の方が「社長」より偉いよね。「社長」というのは、あくまでも会社の枠組みの中にいる代表者であり、その下に経理部・営業部などの部署があるわけだから、「法人(会社)＞社長(代表者)」の関係が成り立つ。



これは、「国家」と「天皇」の関係においても、同じようなことが言える。つまり、「国家>天皇」であるということ。「国家」を「法人」として考えた場合、「国家」の枠組みの中には「内閣」・「議会」・「裁判所」などの様々な機関がある。そして、その「国家」という枠組みの中にある最高機関こそが「天皇」なんだ。



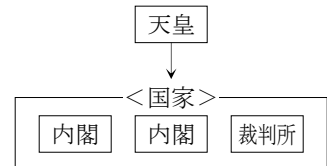
だから、国を治める権利である「統治権」は、国家と天皇のどちらにあるのか？それは、法人である「国家」にある。会社と社長の関係では、「会社」が主たる存在であるようにね。そして、「会社」の枠組みの中の最高機関である「社長」は、その「会社のルール」に従って、会社を運営していく。これと同じように、「国家」という枠組みの中の最高機関である「天皇」は、国家のルール、つまり「憲法」に従って、国家のもつ統治権を行使するんだ。

以上、まとめるとこうなる。「国家」を「法人」として考えた場合、統治権は法人である「国家」にあり、その国家法人の中の最高機関として天皇がいる。そして、国家がもつ「統治権」を天皇が用いていくわけど、何をしてもいいわけではなく、国家のルールである「憲法」に従って行わなければならない、ということだ。これを難しく言うと、「統治権は法人である国家にあり、天皇はその国家法人の最高機関として、憲法に従って統治権を行使する」となるわけだ。

美濃部達吉が自らの著書『憲法講話』（1912）・『憲法撮要』（1923）で唱えた、以上のような憲法学説を天皇機関説と言うんだけど、これはヨーロッパの国家法人説に基づいている。そもそもヨーロッパでは、絶対王政と呼ばれる王様がやりたい放題の時期があった。有能な君主であれば問題はないけど、無能な君主だと苦しむのは国民なので、国民たちは君主の権限に制限をかけるために「憲法」を制定した。こうした歴史を踏まえると、やっぱり「国家」と「君主」では、法人である「国家」の方が上であって、その中で「君主」の統治権を制限するために、憲法が存在するというのがわかるよね。

一方、上の内容はあくまでもヨーロッパの話であって、日本は別。

日本という国は、天照大神の子孫である天皇がお創りになった国だ。そして、古代からずっと一つの家系で支配している万世一系の天皇は、憲法や法律などが成立する以前から存在する現人神である。だから、「天皇」は「国家」という存在を超越した存在であり、「天皇>国家」なのだ。ゆえに、統治権は「天皇」にあり、国家のルールである「憲法」などに縛られることはなく、天皇の統治権に制限などはないのだ。このような東京帝国大学教授の上杉慎吉などが唱えた学説を天皇主権説というんだ。



僕らの感覚からすると、天皇機関説の方が正しいんじゃないか？って思うよね。大正時代の人々も、それから昭和天皇も、天皇機関説の方が正しいと考えていたんだけど、実はこの2つの憲法学説のどちらも正しいと言えるんだ。なぜかという、その理由は大日本帝国憲法にある。大日本帝国憲法の第1条と第3条には次のように記されている。

第1条…大日本帝国ハ万世一系ノ天皇之ヲ統治ス
第3条…天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

ここには、天皇という君主の権限が絶対的な君権主義的な側面が記されているよね。これを基にしているのが天皇主権説なんだ。一方で、大日本帝国憲法の第4条には以下のようにも記されている。

第4条…天皇ハ国ノ元首ニシテ統治権ヲ総攬シ此ノ憲法ノ条規ニ依リ之ヲ行フ

ここでは、天皇という君主の権限は、憲法によって制限される立憲主義的な側面が記されている。これを基にしているのが天皇機関説だ。つまり、大日本帝国憲法には、第1条・第3条のような「天皇は絶対！」的な内容と、第4条のような「天皇も憲法は守らなくちゃ！」的な内容の、矛盾する内容が規定されていたんだ。そのため、その大日本帝国憲法の不備から、天皇主権説と天皇機関説のような2つの憲法学説が唱えられたわけだ。

[C] 民本主義ーテキスト P74 対応ー

大正デモクラシーの重要な思想的支柱になったもう一つのものが、吉野作造の唱えた民本主義だ。これは、民主主義と混同されやすいんだけど、吉野作造曰く民本主義は民主主義とは違うそうだ。

そもそも、民主主義とは現在の日本のように、主権が国民にある主権在民(国民主権)を前提としている。でも、大日本帝国憲法(明治憲法)では、日本の国体(国家体制)は天皇制(天皇主権)であることを明確に規定しているから、この時代に「主権は国民にある！」なんて言ったら、不敬罪でしょっ引かれる可能性が高い。だから、吉野作造は民本主義は民主主義とは違うとして一線を画したんだ。

さらに、国家の政策は、国民の意向・利福(利益・幸福)を重視して行われるべきであるから、そうした国民の意見を政治に反映させることができるんじゃないかと考えた。そして、大日本帝国憲法(明治憲法)に記されている、主権が天皇にある主権在君(天皇主権)については一切否定せず(というか触れることなく)、主権が天皇にある中でも、国民の意向を政治に反映することができるかと答えたんだ。具体的には、普通選挙制と政党内閣制が実現されれば、それも可能であるとね。

つまり、まず普通選挙制によって全ての国民に選挙権を与えてみる。そして、国民たちは自分の支持する政党に投票していく。選挙の結果、一番議席数を獲得した政党から内閣を組閣させる(政党内閣制)。そうすれば、その政党が国民たちの求める政策を実行してくれる。これであれば、主権在君(天皇主権)の大日本帝国憲法下でも、国民の意見を政治に反映することができるよね。

回 吉野作造の民本主義『中央公論』

民本主義といふ文字は、日本語としては極めて新しい用例である。従来は民主主義といふ語を以て普通に唱へられて居ったやうだ。時としては又民衆主義とか平民主義とか呼ばれたこともある。然し民主主義といへば、社会民主党などといふ場合に於けるが如く、「国家の主権は人民にあり」といふ危険なる学説と混同され易い。又平民主義といへば、平民と貴族とを対立せしめ、貴族を敵にして平民に味方するの意味に誤解せらるるの恐れがある。獨り民衆主義の文字は、以上の如き欠点はないけれども、民衆を「重んずる」といふ意味があらはれない嫌がある。……故に、民本主義といふ比較的新しい用語が一番適當であるかと思ふ。

(民本主義という用語は、日本語としては極めて新しいものである。従来は民主主義という語を用いて普通に唱えられていたようである。時には民衆主義とか平民主義とか呼ばれたこともある。しかし、民主主義といへば、社会民主党などという場合のように「国家の主権は人民にある」という危険な学説と混同されやすい。また平民主義といへば、平民と貴族を対立させ、貴族を敵にして平民に味方するという意味に誤解される恐れがある。民衆主義の用語だけは、以上のような欠点はないけれども、民衆を重んずるという意味が表れない傾向がある。……ゆえに、民本主義という比較的新しい用語が一番適當であると思う。)

こうした民本主義を吉野作造は、雑誌『中央公論』の中で「憲政の本義を説いて其有終の美を済すの途を論ず」という論文として発表したんだ。そして、この考えを広げていくための団体として黎明会を1918年に結成する。その結果、吉野作造に学んだ東大学生を中心にした新入会(1918)や、早稲田学生を中心にした建設者同盟(1919)などが結成されたんだ。

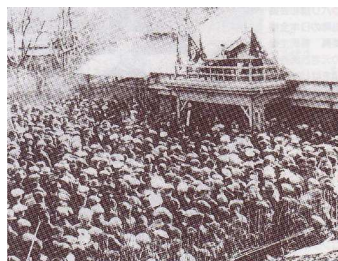
こうした思想的論拠が提唱されたことによって、1918年頃から普通選挙運動が盛り上がっていくことになるわけだね。

[D] 労働運動ーテキスト P75 対応ー

1914 年に勃発した第一次世界大戦によって、日本は大戦景気を享受することになった。その大戦景気によって労働者は約 2 倍に増加し、賃金なども上がっていった。でも、都市の人口が増加したことで需要が増えたため、物価は賃金 up 率以上に上がってしまったため、実質的な賃金は低下することになってしまった。つまり、給料は上がったけど、物価はそれ以上に上がってしまったから、人々はおもって給料を上げてもらわないと困る。そのため、賃金の引き上げを求める労働運動が高まることになったんだ(労働運動とは、労働者が資本家に対して給料の引き上げや労働時間の短縮などを求めるため、交渉したりストライキを起こしたりすることをいう)。

そこで、労働者の地位を向上させることを目的に、キリスト教徒の鈴木文治によって 1912 年に結成されたのが友愛会だ。「友愛」っていう言葉は、キリスト教における博愛(分け隔てなく広く愛すること)とほぼ同義だけど、元首相のポッポ氏(鳩山由紀夫)がよく使っている言葉だね(オエッ)。

労働者と資本家は、給料アップ・労働時間の短縮などを求める労働者と、給料アップを抑えて出来るだけ長時間働いてもらいたい資本家が対立することが多い(右写真の労働争議の様子のようにね)。でも、この友愛会は「友愛」の言葉通り、労働者も資本家も、それぞれ相手を思いやる協調的な姿勢をもって、話し合っただけで労働条件を改善していこうっていう労資協調主義の組織だ(労資とは労働者と資本家のこと)。



[労働争議の様子]

ただし、この友愛会は 15 人で結成された組織で、労働組合ではない。言葉は悪いかもしれないけど、肉体労働者の人々には高等教育をあまり受けておらず、教養などに欠ける人もいる。だから、そうした労働条件を改善していくために、労働者が共に助け合っただけで、教養などを磨いていくための共済・修養組織にすぎなかったんだ。

そして、大戦景気によって労働者が増加するようになると、友愛会の会員数も 1 万人を超えるようになった。そこで、1919 年には全国的な組織として大日本労働総同盟友愛会へと名称を変更し、翌年の 1920 年には上野公園で行われた日本最初のメーデーを指導するまでに成長したんだ。なお、メーデーというのは、毎年 5 月 1 日に行われる労働者の祭典のことで、現在では代々木公園で行われているんだよ。



[第 1 回メーデー(1920)]

でも、大戦景気が終わり、株価の大暴落をきっかけに 1920 年には戦後恐慌が起きてしまった。今までは景気が良かったから、労働者が「給料上げてくださいよ〜」って言えば、資本家も「景気も良いから、上げたか!」ってなっていた。でも、今は不景気だから、労働者はおもって給料を上げてほしいし、資本家は給料なんて上げられる状況じゃなくなる。結果、労働者が労働時間短縮と給料アップを実現するためには争議(ストライキ)しか方法がなくなって、1920 年には八幡製鉄所で大規模な争議(ストライキ)が、1921 年には川崎・三菱造船所でも大規模な争議(ストライキ)が起きているんだ。

ここで、相手を思いやる「友愛」の精神じゃ通用しなくなっているのがわかるよね。そのため、大日本労働総同盟友愛会も(1920 年に日本労働総同盟友愛会に改称した)、ついに「友愛」の精神を捨てて、1921 年に日本労働総同盟(略称総同盟)へと名称を変更し、全国的な労働組合組織へと性格を改めたんだ。そして、この組織になると、労資協調なんて甘っちょろい考えは、もはや無い。労働条件を改善するためには、ストライキなどを起こして断固戦うしかないんだっていう階級闘争主義へ変わっている。

なお、このような労働組合のバックには、いつの世でも右派(社会民主主義系)・左派(共産主義系)と呼ばれる社会主義系の人々がいる。日本労働総同盟も、こういった社会主義者をバックにしていたんだけど、穏健な右派(社会民主主義系)が政府から合法として認められているのに対し、急進的な左派(共産主義系)は非合法なので、政府から弾圧される対象だ。だから、右派(社会民主主義系)の人々からすれば、左派(共産主義系)がいるせいで政府に睨まれちゃうわけ。そこで、1925年に左派を排除して、「わたしたちは共産主義には反対ですよ～」って考えを鮮明化したんだ。その一方で、右派・左派の対立によって日本労働総同盟から排除された左派は、1925年に日本労働組合評議会を結成している。

—＜社会民主主義(右派)・共産主義(左派)＞—

社会主義者の中には、穏健な考え方と過激な考え方の人々がいる。穏健な人々は、選挙で社会主義者を当選させて、議会を社会主義者で占めることによって、民主的に社会主義を実現しようとする。このような考えを社会民主主義という。一方、過激な人々は、革命によって現体制を社会主義に変えてしまおうと考える。このような考えを共産主義という。つまり、貧富の差のない平等な社会に変えようとする社会主義の中に、穏健な社会民主主義と過激な共産主義の2つがあると考えるとわかりやすいね。

フランス革命後に議会が開かれた時、穏健・保守的な人々が議場の右側の席に座っていて、急進的・革新的な人々が議場の左側の席に座っていた。ここから、穏健・保守的な人々を右派と呼び、急進的・革新的な人々を左派と呼ぶようになった。ゆえに、社会主義の中で考えると、社会民主主義のように議会を通じて社会主義の実現をめざす穏健派は右派ということになり、共産主義のように革命によって社会主義の実現をめざす革新派は左派ということになる。

ちなみに、右派・左派というのは、国家主義者をさす右翼と社会主義者をさす左翼とはまた別物。単純に考えると、以下のように考えるとよい。国家主義のように国家の維持を第一優先に考えるような極端な思想を「右(右翼)」といい、社会主義のように国家の変革を第一優先に考える極端な思想を「左(左翼)」といい、自由主義(リベラル)のようにそのどちらにも属さない場合を中間派という。

左(社会主義) ←———— 中間派(自由主義) —————→ 右(国家主義)

さらに突っ込むと、「左(社会主義)」の中には、穏健な社会民主主義者や急進的な共産主義者もいる。その「左(社会主義)」の中でも特に「左」に突き抜けた急進的な思想の共産主義が左派、「左(社会主義)」の中でも、やや「右」寄りの穏健な思想の社会民主主義が右派と考えるとよい。

左(社会主義) ←———— 中間派(自由主義) —————→ 右(国家主義)

左派(共産主義) ↔ 右派(社会民主主義)

[E] 社会主義運動—テキスト P75 対応—

上記のように、大正時代には労働運動が盛上がった。さらに1917年にはロシア革命が起きたことで、革命によって社会主義政権を樹立することができると証明された。こうした労働運動の高揚・ロシア革命の影響を背景に盛り上がるようになったのが社会主義運動なんだ。

—＜共産主義・無政府主義＞—

革命によって資本主義などの現体制を変革し、貧富の差の無い平等な社会にしようとする思想を共産主義という。または、カール＝マルクスが唱えた思想を、レーニンがロシア革命で成功させたことから、マルクス主義とかマルクス＝レーニン主義ともいう。その革命が成功したロシアでは、レーニンを指導者とするボルシェビキ(のちのロシア共産党)という勢力が、他の全ての政党を解散させてボルシェビキによる一党独裁を確立した。そこから、共産主義のことをボルシェビズムとも言うんだ。

でも、実は世界の中で本当の意味での共産主義を実現した国は一つとしてない。例えば、旧ソ連や現在の中国・北朝鮮は共産主義国家と言われるけど、本当にみんな平等なんだろうか？いや、実際には、ソ連ではロシア共産党が富と権力を牛耳っていたし、中国では中国共産党幹部が富と権力を牛耳り、北朝鮮では朝鮮労働党幹部が富と権力を牛耳っている。

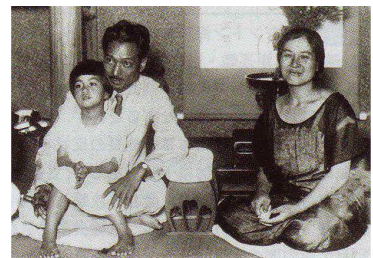
つまり、共産主義では、共産党による一党独裁が行われるから、結局共産党が支配者となってしまうわけだ。これでは、本当のみな平等の社会ではない。それだったら、政府なんて無ければいいんじゃないだろうか？政府・議会・軍隊・警察など全ての国家権力が無ければ、本当の意味での平等が訪れるはずだ。このような極論を無政府主義という。じゃあ、政府がなかったらどうするのか？地域ごとに労働組合を結成して、その労働組合が地域ごとをまとめるコミュニティを作れば良いそう。まあ、わかりやすく言えば、縄文時代のように地域ごとのコミュニティを作る感じだね。でも、そんなことしたら、社会秩序なんてあったものじゃなく、無秩序な世の中になるだろう。「無秩序」を英語で言うと「アナキー(anarchy)」。だから、無政府主義のことをアナキズムとか、アナルコ・サンディカリズムとも言うんだ(アナルコは無政府主義・サンディカは労働組合のこと)。

1917年にロシア革命が成功したことを受けて、日本国内でも共産主義や無政府主義といった思想の研究が盛んになっていく。そして、東大助教授の森戸辰男はロシアの有名な無政府主義者であったクロボトキンの思想を研究していて、「クロボトキンの社会思想の研究」という論文を発表したんだ。でも、無政府主義といえば社会主義思想の中でも最も危険なものにあたる。そのため、原敬内閣時の1920年には、森戸辰男とそれを東大機関誌に掲載した発行編集人の大内兵衛が休職処分とされたんだ(この事件を森戸事件という)。

さらに、1920年には日本社会主義同盟という社会主義者の統一組織が結成されている。これは、わかりやすくいえば、共産主義者や無政府主義者などが思想の違いを超えて結成した共同戦線。だから、これを結成した山川均・堺利彦は共産主義者だし、大杉栄は無政府主義者なんだ。でも、結局は危険思想を持っている団体には変わらないよね。そのため、翌年の1921年には原敬内閣によって結社禁止とされているんだ(原敬は社会主義の勢力伸張を懸念して、普通選挙運動に反対であったように、社会主義思想に対しては森戸事件や日本社会主義同盟の結社禁止のように弾圧した)。

さて、日本社会主義同盟が禁止された後の1921年～1923年には、これを結成した共産主義者と無政府主義者の間で論争が起こって、対立が深まるようになった。[共産主義・無政府主義]で既述したように、ボルシェビズムとも呼ばれた共産主義は、共産党政府による一党独裁をめざしていた。それに対して、アナルコ・サンディカリズムとも呼ばれた無政府主義は、共産党政府による一党独裁では共産党幹部に富と権力が集中してしまうから、政府などの国家権力を全てなくするという考えを持っていた。ここから「政府は必要か必要ないか」をめぐる、両者の間で論争が起きてしまったんだ。これをアナルコ・サンディカリズムとボルシェビズムの論争＝アナ・ボル論争という。そして、結局両者は袂を分かつことになる。

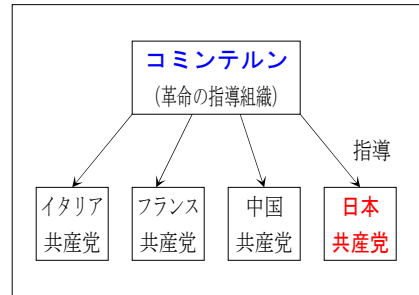
無政府主義(アナルコ・サンディカリズム)のリーダーは大杉栄。あれ？大杉栄といえば、1923年の関東大震災後のパニックに乗じて、憲兵大尉の甘粕正彦が起こした甘粕事件によって、内縁の妻である伊藤野枝と共に殺害されなかったっけ？そう。政府にとっては、この無政府主義は最も危険な思想にあたるため、関東大震災後のドサクサに紛れて殺されてしまったわけだ。そのため、リーダーを失った無政府主義は、その後方向性を見失って、テロ活動を行うぐらいしかできなくなってしまう。それゆえ、甘粕事件後に無政府主義は壊滅的な状態となるんだ。



[大杉栄(左)・伊藤野枝(右)]

一方で、共産主義(ボルシェビズム)のリーダーは**山川均・堺利彦**(1903年に幸徳秋水と共に平民社を結成し、徐々に共産主義へと傾いていった人物)。そして、彼らは共産党による一党独裁をめざしているわけだから、そのためには政党を作らなければ話にならない。そこで、**コミンテルン**(国際共産党)の日本支部として、**1922年に山川均・堺利彦らが日本共産党を非合法に結成したんだ**。

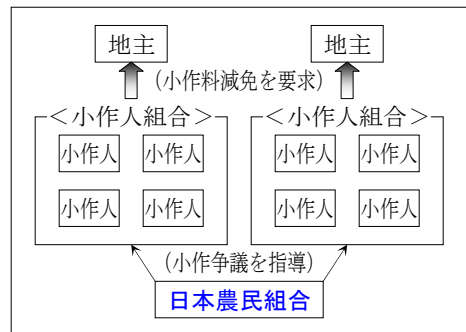
なお、**コミンテルン**というのは、共産主義による革命を各国に指導していくために、1919年にレーニンが設けた組織。つまり、ロシア革命を成功させたソ連は、「世界のみなさん、私たちは革命に成功しましたが、他の国でも成功するはずですよ！その革命のやり方を他の皆さんにも教えてあげますから！」という組織を結成したわけだ。そして、そのコミンテルンのイタリア支部としてイタリア共産党、フランス支部としてフランス共産党、中国支部として中国共産党(1921)、日本支部として日本共産党(1922)などが結成されていったんだ。



ちなみに、なぜ日本共産党が「非合法」なのか、という質問もあると思うので答えておこう。日本共産党は、ソ連の指導のもとに革命を起こそうと企んでいる。革命を起こすとなると、日本のトップである天皇を処刑 or 追放することになるだろう。つまり、彼らは**天皇制**という日本の**国家体制(国体)**の**変革**を企んでいるわけだ。大日本帝国憲法では天皇制は明らかに記されているし、後に制定される治安維持法でも「**国体(天皇制)**の変革」・「**私有財産制度(資本主義)**の否認」を目的とする結社を禁止しているよね。だから、**日本共産党は非合法な政党**ということになるわけだ。

[F] 農民運動—テキスト P75 対応—

明治時代に、地主が小作人から高額の小作料を徴収する寄生地主制が確立した。そして、大正・昭和時代になっても、小作人たちは地主からの高額の小作料徴収に苦しめられていたんだ。それだったら、労働者が労働組合を結成して給料の引き上げ・労働時間の短縮を要求したように、小作人たちも小作人組合というものを結成して小作料の引き下げを要求していけばいい(こうした小作料の減免要求を**小作争議**という)。そこで、各地の小作争議を指導していくための組織として、**1922年に賀川豊彦・杉山元治郎によって日本農民組合が結成されたんだ**。



こうして、各地で小作争議が頻発していくことになるんだけど、その件数がハンパなかった。そこで、政府は小作争議が起きた場合の対応を定めるために、1924年に**小作調停法**を制定しているんだ。

[G] 部落解放運動—テキスト P75 対応—

江戸時代に、えた・非人と呼ばれた人々が住んでいる集落は「**部落**」と呼ばれて、彼らに対する差別は、明治・大正時代になっても変わらなかった。そこで、こうした被差別部落民に対する差別をなくそうと、**阪本清一郎・西光万吉**の発起によって**1922年に結成されたのが全国水平社**だ(全国を水平=平等にしようという意味)。その**西光万吉**が起草した設立宣言文の「人の世に熱あれ、人間に光あれ」からも、今までの彼らの立場がどうみられていたか推察できるよね。



〔全国水平社の結成〕

[H] 婦人運動ーテキストP74対応ー

江戸時代には、家長(戸主)である父親が絶対的な権限をもつ家父長制の確立によって、**男尊女卑**という意識が定着していた。例えば**貝原益軒**が著したとされる『**女大学**』では、女子は子供の頃は父に仕え、結婚後は夫に仕え、夫が死んだ後は長男に仕える「**三従の教え**」が美徳だとされていたんだ。

これは、明治時代になっても同じで、明治民法では、戸主(父親)の意に反して住居を定めることができない(第749条)、戸主(父親)の同意がなければ婚姻・養子縁組ができない(第750条)などの**戸主権**が定められていた(このような家長である戸主が家をまとめる強大な権利をもつ制度を**家族制度(家制度)**という)。

でも、女性が抑圧されている時代だからこそ、それに反発する女性もいる。それが明治時代に流行っていた自由民権運動に参加した**岸田(中島)俊子**だ(のち自由党副総理の中島信行と結婚して中島に改姓)。

彼女は、女性の権利拡大を求めた演説を各地で行ったんだけど、その演説を岡上で聞いて、影響を受けたのが**景山(福田)英子**だ(のち万朝報記者の福田友作と結婚して福田に改姓)。「あたいもやりまっせ!」と彼女も自由民権運動に参加したんだけど、気合が空回り。朝鮮の内政改革を企てて、朝鮮への渡航費用を調達するため強盗などをしていたら、この頃の内縁の夫であった**大井憲太郎**と共に逮捕されちゃった(これを**大阪事件(1885)**といったよね)。この時に収監された様子などを記したのが、彼女の自叙伝『**差の半生涯**』で、後には女性解放雑誌として『**世界婦人**』も刊行している。



[岸田俊子]

一方で、女性の中には娼婦(売春婦)などになってしまう者もいる。そうした娼婦などがいるから、女性の地位は低いままなのだ。そこで、キリスト教徒の**矢島楯子**によって設立された**矯風会**(日本キリスト教婦人矯風会)が、娼婦(売春婦)の廃止を求めた**廃娼運動**、結婚するまでは処女であることを求めた純潔運動、禁酒運動などを提唱したんだ。でも、矢島楯子って自分の子供を置いて家を出たり、妻子ある人との間に子供を産んだり、タバコでボヤを起こしたり、実はただの偽善者なんだけどね。

さて、明治時代には教育制度が確立され、女子教育の場では国家主義的な**良妻賢母**を育成する教育が進められていった。つまり、「女性は夫のために良い妻であれ、子供のために賢い母であれ」っていう教育なんだけど、自我の強い女性はそれに反発する。それが**平塚雷鳥(らいてう・本名は明)**だ。

学生の頃は、よく学校の授業をサボったりしていたんだけど、それは国家主義的な教育に対するせめてもの抵抗だったんだろうね。そんな彼女が20歳を過ぎた頃に出会ったものが、一冊の本だった。ドイツの詩人ゲーテの小説『若きウェルテルの悩み』に触れたことで、文学に目覚めるようになるんだ。でも、それまでは、女性が芸術について語ることなどはタブー視されていた。そんな状況でも気にも留めず、イギリスの女性の中には、青い靴下(ブルーストッキング)をはいて、ガンガン語りまくる女性たちがいた。平塚雷鳥も、それにちなんで**1911年**に**青鞥社**という**女性のみ**の文学団体を結成したんだ。

鞥

そして、雑誌『**青鞥**』を発行するんだけど、そこに寄せた平塚雷鳥の創刊の辞「**元始**、女性は実に**太陽**であった」は、めちゃめちゃ有名な名文だね(原始ではなく、元始なので気をつけてね)。この文は、「…今、女性は**月**である」と続くんだけど、これがどういう比喻なのかわかるかな?

太陽は自ら光を放つものに対して、月は太陽の光を受けて輝く。もともと、女性は太陽のように自ら光を放って輝く自立していた存在であった。でも、今の女性は男性に依存した存在となってしまう、自ら光を放ってはいない。男性という光によって輝いている存在なのだ。だから、女性は失ってしまった太陽を取り戻して、自立していかなければいけないのだ。

㊦ 『青鞜』 発刊の辞『青鞜』 by 平塚雷鳥

元始、女性は実に太陽であった。真正の人であった。今、女性は月である。他に依って生き、他の光によって輝く、病人のやうな蒼白い顔の月である。……偕てこゝに青鞜は初声を上げた。現代の日本の女性の煩悩と手によって始めて出来た青鞜は初声を上げた。私共は隠されて仕舞った我が太陽を今や取戻せばならぬ。……

(元始(はるか昔)、女性は実に太陽であった。主体性をもった真実の人であった。今、女性は月である。男性依存して生き、男性の光によって輝く、病人のような青白い顔の月である。さてここに青鞜は産声を上げた。現代の日本の女性の煩悩と手によって初めて出来た青鞜は産声を上げた。…私(平塚雷鳥)たちは隠されてしまった我が太陽を今こそ取り戻さなければならない。……)

ところが、女性からの反応は良かったんだけど、男性からの反応はめちゃくちゃ悪かった。例えば、青鞜社メンバーがバーでカクテルを飲んだことが「女のくせにカクテルを飲んでやがる」と批判を受ける(現代では普通のことだけどね)。さらに、平塚雷鳥たちが吉原の遊郭で花魁を見物しに行ったことで、「女が吉原に行くなんて!」とバッシングされる(吉原に女が行くのはどうかと思う…)。ここから、マスコミから青鞜社メンバーのプライベートなことまで書き立てられて、ついに、『青鞜』は1916年に休刊に追い込まれてしまったんだ。

バッシングを受けたことで、平塚雷鳥は徐々に女性の地位などの問題に目を向けるようになっていたんだ。でも、女性に対する差別・抑圧は変わらない。それはなぜか? 法的な制限があるからだ。例えば、1900年に制定された治安警察法の第5条では、女子の政治結社への加入や政治集会への参加が禁止されていた。だから、まずはそれを改正しない限り、女性の地位は向上しない。そこで、治安警察法第5条の撤廃を求めて、1920年に平塚雷鳥・市川房枝・奥むめおらによって結成されたのが新婦人協会だ。こうした活動の結果、高橋是清内閣時の1922年には治安警察法が改正されて、女性の政治集会への参加が認められることになったんだ。



〔新婦人協会〕

これで、政治活動の自由が認められたのだから、次の目標は「女性にも選挙権を!」だ。そこで、1924年に市川房枝(戦後に参議院議員となった)・久布白落実らによって結成されたのが婦人参政権獲得期成同盟会だ(平塚雷鳥は過労を理由に引きこもった)。なお、期成とは「めざす」という意味なので、この団体は「婦人」の「参政権獲得」を「期成(めざす)」する「同盟会」ということ。そして、活動したものの、1925年に制定された普通選挙法では25歳以上の男子にしか選挙権は与えられず、女性には選挙権は与えられなかった。

「何でだわさ〜! 私たち婦人参政権獲得期成同盟会は頑張ってたのに! 何で私たち婦人参政権獲得期成同盟会の要求を聞いてくれないのよ! これから婦人参政権獲得期成同盟会は何を目的に活動すべきなのかしら! …ハッ! この団体名が長すぎたのが失敗の原因ね!」ということで、1925年にはそれを省略した婦選獲得同盟へと改称している。

このような婦人の中で、結婚した旦那が共産主義者や無政府主義者だと、同じような思想に傾きやすくなる。その代表者が、無政府主義者のリーダー大杉栄の妻伊藤野枝や(内縁の妻)、共産主義者のリーダーであった山川均の妻山川菊栄だ。そんな彼女らが1921年に結成したのは赤瀾会という女性社会主義者の団体なんだけど、これは「赤」という語句から想像しやすいよね(赤(アカ)とは社会主義者・共産主義者をさす警察の隠語)。

瀾

なお、伊藤野枝といえど、1923年の甘粕事件で夫の大杉栄と共に殺害され、山川菊栄は戦後に労働省婦人少年局長に就任している。だから、山川菊栄を指定する時には、「赤瀾会を結成し、戦後に労働省婦人少年局長に就任した人物は誰か?」と制限を加えてくるんだ。



〔赤瀾会(左=山川菊栄・中=伊藤野枝)〕

[I] 国家改造運動ーテキストP75対応ー

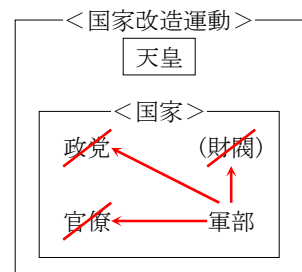
ここまで説明してきた対象デモクラシー、すなわち労働運動・農民運動・部落解放運動・婦人運動は、すべて立場の弱い人々が現在の状況を打破するために起こしてきた運動だったよね。でも、今から説明する国家社会主義に基づく国家改造運動は、軍部や右翼によって進められたもので、立場の弱い人々が現状を打破しようとするような運動ではない。なので、この国家社会主義に基づく国家改造運動は対象デモクラシーとは関係がないので気をつけてほしい。

さて、そもそも「国家社会主義」という思想がわかりづらい。これは「国家主義」と「社会主義」を合わせたものなんだけど、具体的にはどういう思想なんだろう？

日本の政治は政党・官僚が牛耳り、経済は財閥が牛耳っている。そして、時は大正から昭和にかけて、日本経済は戦後恐慌(1920)・震災恐慌(1923)・金融恐慌(1927)・昭和恐慌(1930)と、相次ぐ恐慌に見舞われて、民衆は貧困にあえぐようになった。それにもかかわらず、三井は立憲政友会と、三菱は憲政会(のち立憲民政党)、といったように財閥と政党は癒着している。

このような状況を見た軍部・右翼は、政党・官僚・財閥などはこの日本を腐らせている元凶なのだとみなすようになった。そして、これを立て直すためには、「国家」を一から「改造」していくしかないと考えようになったんだ(これが「国家改造」にあたる)。

だから、「国家」を「改造」するには、クーデターやテロで軍部が権力を奪うしかない。つまり、クーデターを起こして、政党・財閥・官僚の人間を殺害し、天皇をトップとした上で軍部による内閣を樹立する。そして、その軍部内閣がやりたい放題できるように、憲法を停止して、議会も解散させてしまう。さらに、華族制・貴族院を廃止して、金持ちの財産を制限し、大企業も国営化してしまう。そうすれば、貧困にあえぐ民衆たちにも、もうちょっとお金が行き渡るようになり、富が公平に分配されることになるはずだ。



こうしてみると、彼らは「社会主義」を実現しようとしているのがわかるよね。ただし、社会民主主義や共産主義が「国民」たちによる社会主義を目指しているのに対して、この思想は軍部という「国家」権力による「社会主義」を目指している。だから、この思想は「国家」の力によって「社会主義」を実現しようとするので、国家社会主義と呼ばれるんだ。

こうした国家社会主義に基づいて、北一輝・大川周明・西田税らによって 1919 年に結成された民間の右翼団体が猶存社だ。この中心的な存在の北一輝の著した『日本改造法案大綱』には、上記のような内容が記されていて、陸軍の青年将校(20 代・30 代のエリート幹部候補生)たちに絶大な影響を与えることになったんだ。結果として、これが 1936 年の二・二六事件という軍部の暴走につながっていくことになるんだけどね。